

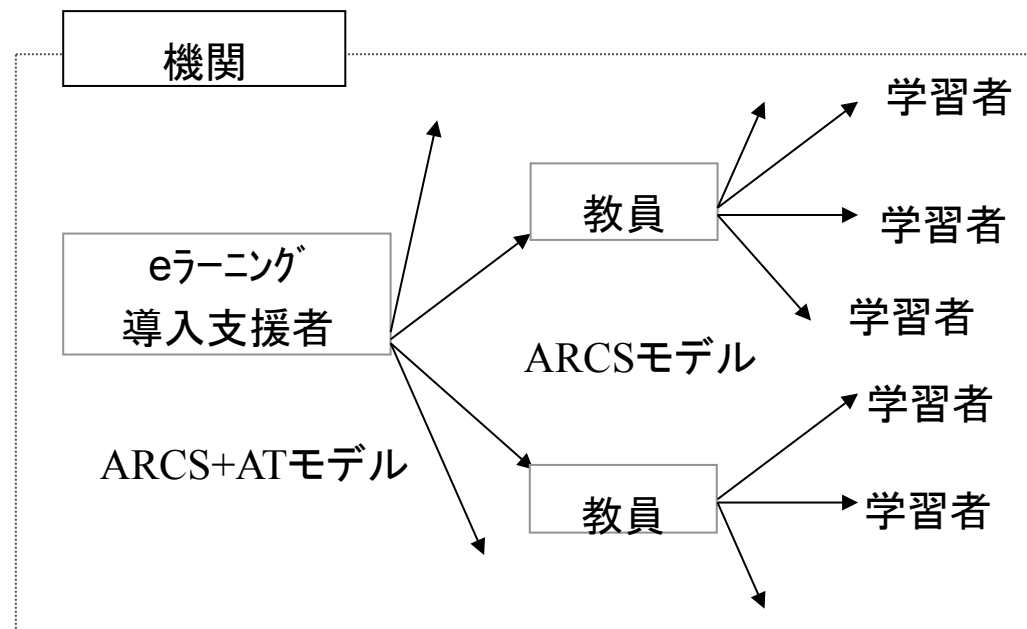
第102回

教員の「eラーニング実践の動機づけ」を支援する、
という研究

- 大学等機関のeラーニング推進/教育改善に資する、が主旨.
- 機関が教員の「eラーニング実践の動機づけ」を支援する.
 - [動機づけ二重構造](#)→[ARCS+ATモデル](#) & [ARCS+ATチェックリスト](#)
 - チェック後の対応方策例:[教員向け情報配信ウェブサイト](#) / [そのまま提供できるeラーニング教材](#)
- 「AT」: 支援するのは「初動」?, 「意志の継続」?, その両方?
 - [ARCS-Vモデル](#) / [活動制御理論](#) などを参照中.
- 「意志の継続」の支援方策をARCS+ATの文脈で.
 - [Volitionチェックリスト](#) ([役割](#) / [利用タイミング](#))
- データ収集と[評価方法](#)が今後の課題

動機づけの二重構造

- eラーニング実践において、教員に「学習者」の要素があるととらえた。



ARCS+ATモデル

- 機関と教員個々の関係性において、機関による支援の要素が重要と考えた。

Attention: 注意 <面白そうだなあ>

機関全体に対して、学外を含めた全般的な「注意を引く」情報を提示する方策を整備します。

Relevance: 関連性 <役立ちそうだなあ>

機関全体に対して、学外を含めた一般論的な、個別に有用な「関連性のある」情報を提示する方策を整備します。eラーニング導入が「効果的である」という前提に立って整備します。

Assistance & Tools: 支援 <頼れそうだなあ>

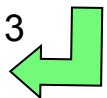
機関全体に対して、個別に有用な機関の「利用できる支援」情報を提示する方策を整備します。また、IDの有効性を伝播する方策を整備します。

Confidence: 自信 <実現・改善していけそうだなあ>

主に個別支援対応を想定して「実現可能性を感じさせる」情報を提示する方策を整備します。

Satisfaction: 満足感 <導入してよかったなあ>

主に個別支援対応を想定して「導入実現」に関する情報を提示する方策を整備します。



ARCS+ATチェックリスト

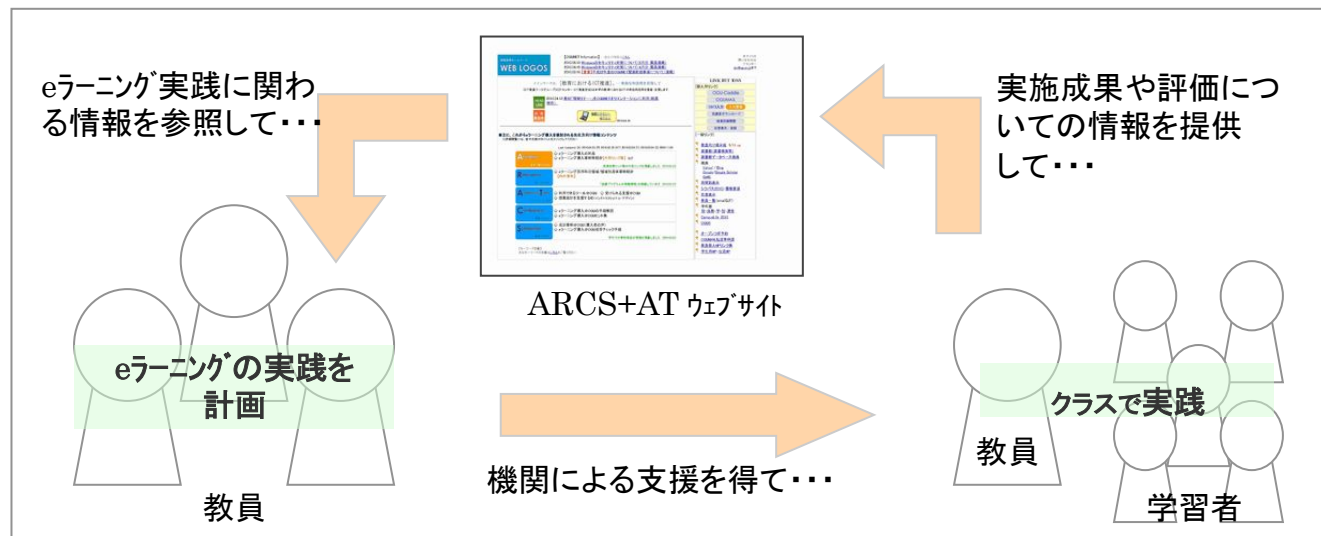
- A, R, C, S, ATの各要素に関して、機関のeラーニング支援者は、支援環境等の整備状況を確認し、改善点を洗い出す。
- 機関が「出来得る」改善を促すことが目的。

満足感 (Satisfaction) <導入してよかったなあ>			
自信 (Confidence) <実現・改善していけそうだなあ>			
支援 (Assistance & Tools) <頼れそうだなあ>			
関連性 (Relevance) <役立ちそうだなあ>			
注意 (Attention) <面白そうな方法だなあ>			
	チェック項目	タスクリスト	チェック結果記入欄 (不足点・改善案など併記)
A-1 知覚的 喚起	1. 教員向け Web など、eラーニング導入に関する情報を配信する手段を整備しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教員向け eラーニング導入支援情報配信サイト構築。 同主旨の冊子等作成・配付。 同主旨のメール等配信。 	<ul style="list-style-type: none"> LMS に関して教員向けマニュアル冊子を提供しているが教員向け Web やメール配信などの整備はできていない。 【対応策】これからサイト構築する方向で方策を検討する。
	2. eラーニング導入の利点に関する情報を配信しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 前項の手段による配信における方策。 	<ul style="list-style-type: none"> 明確な形ではできていない。 【対応策】上記サイト(以下、「サイト」とする)で配信したい。
	3. 各種情報配信において、タイトルやイメージ図など、関心を引きつけるように工夫されているか。		<ul style="list-style-type: none"> 前項の手段による配信における方策。
A-2 探究心 の喚起	1. eラーニングという形態(カラクリ)を有効活用している科目事例を提示しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 前項の手段による配信における方策。 	<ul style="list-style-type: none"> あまりできていない。 【対応策】要事例調査。次項目等含めて eラーニングに関する調査と研究が必要。調査した情報はサイトに掲載する形となる。



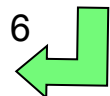
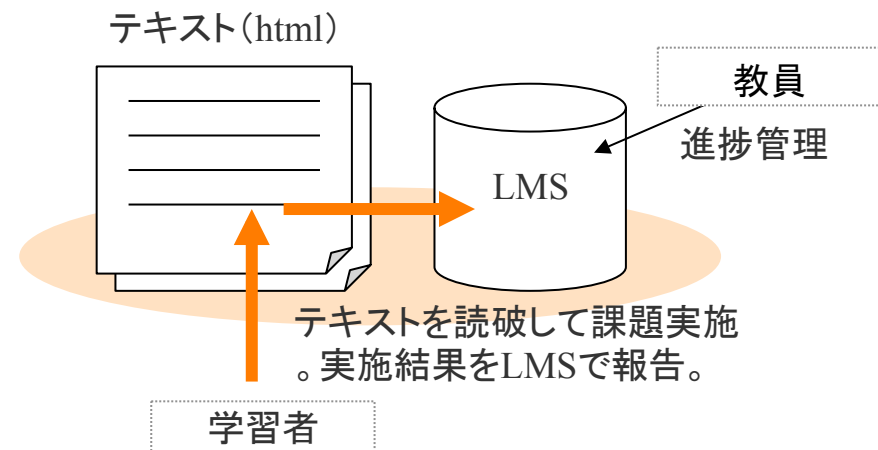
チェック結果に基づく対応方策例： 教員向け情報配信ウェブサイト

- A(注意), R(関連性), C(自信), S(満足感)とAT(支援)に関する学内外の情報を配信するウェブサイト. 主にAやR, Cに関わる方策となる.



チェック結果に基づく対応方策例： そのまま提供できるeラーニング教材

- 例えば、ゼミなどの補助教材として利用できるオンデマンドの「情報リテラシー」教材。（http://www.osaka-gu.ac.jp/dec/j_literacy/index.swf）
- 「まずやってみる」をすぐに実現する機会を提供。主としてC(自信)に関わる方策となる。



ARCS-Vモデル (Keller, 2008; 2010)

- 伝統的なARCSモデルの拡張
V=Volition(意志)
- 「期待×価値」で得られた意欲による行動が目的達成に至るかどうかに意志のスキルによる。
- 意志に係る動機づけの支援方略
 - ①活動前計画を含む実施方略
 - ②自己規制活動を支援する意図方略

J.M.Keller (2008) 'First principles of motivation to learn and e3-learning', Distance Education, 29: 2, 175-185,

J.M.Keller (2010)『学習意欲をデザインする』鈴木克明監訳, 北大路書房, 第1章

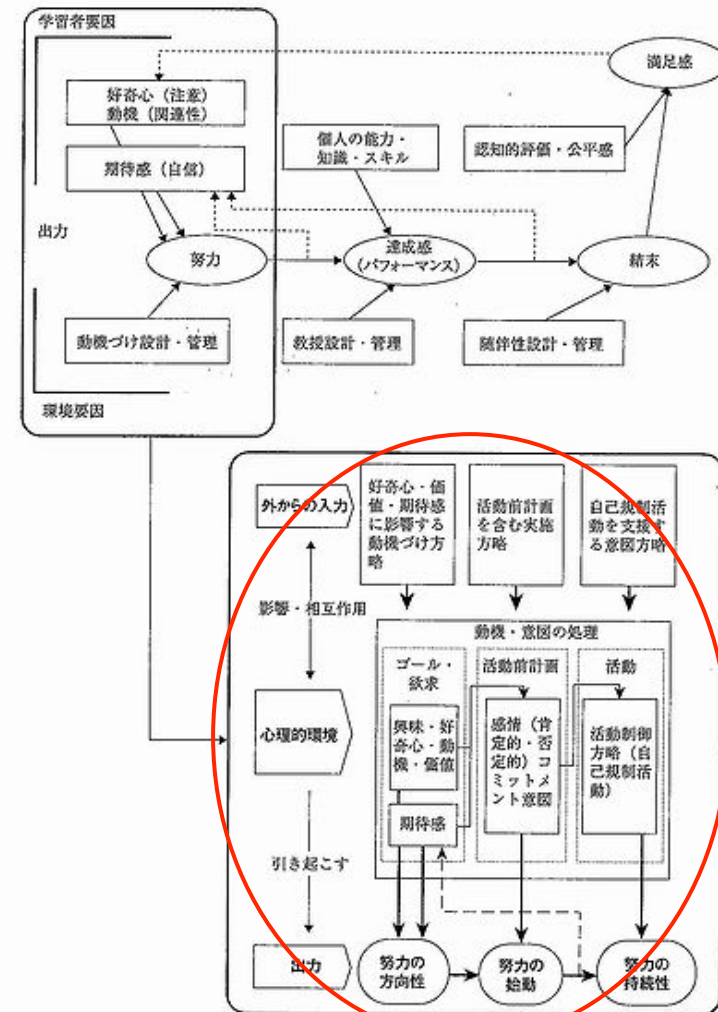


図1.3 コミットメントと意志を組み込んだケラーのマクロモデル修正版

活動制御理論 (Action Control Theory) (Kuhl, 1984)

障害を避けて課題をやり遂げるための活動方略:

1. 選択的注意

対立する活動傾向のための情報処理を禁止して現在の意図を保護.

2. 符号化制御

入って来る刺激のうち, 現在の意図に関係するものだけ選択的に記号化

3. 感情制御

現在の意図を支援する感情のみ許容し, その他を抑圧する.

4. 動機づけ制御

現在の意図の卓越性を再確認し維持する.

5. 環境制御

制御不能な障害をなくした環境をつくる.

6. 情報処理の儉約

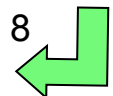
情報量が十分か判断するなど, 現在の意図を守る行動を維持できるような決定をする.

Kuhl, J. (1984), Volitional aspects of achievement motivation and learned helplessness: toward a comprehensive theory of action control, Progress in Experimental Personality Research, 13,99-171

ただし上述の6項目は前頁掲載のKeller(2010)より転載.

©2011 Koji Nakajima

eラーニング推進機構 eラーニング授業設計支援室
ランチョンセミナー



Volitionチェックリスト

- ・ 教員の「eラーニング実践の動機づけ」に関する障壁となり
そのような事項を予めピックアップしてチェックリストにしておく。

只今作成中

区分	主なチェック内容
分析：Analyze	・ 授業の改善課題をeラーニング活用で解消するのが難しそうか？
設計：Design	・ eラーニングを活用した授業設計が難しそうか？ ・ LMS（Learning Management System）に教材設計をするのが難しそうか？
開発：Develop	・ デジタル教材の開発・制作作業が難しそうか？ ・ LMSへの設定が難しそうか？ ・ 学習方法手順などの関連資料の作成が難しそうか？
実施：Implement	・ 受講生への学習方法周知が難しそうか？ ・ 受講生の進度にばらつきがある場合の対応が難しそうか？
評価：Evaluate	・ 受講生用の評価シート等の準備が難しそうか？ ・ 受講生に授業を評価させるのに抵抗があるか？ ・ eラーニング利用授業の自己評価を行うことに抵抗があるか？

チェックリストの役割

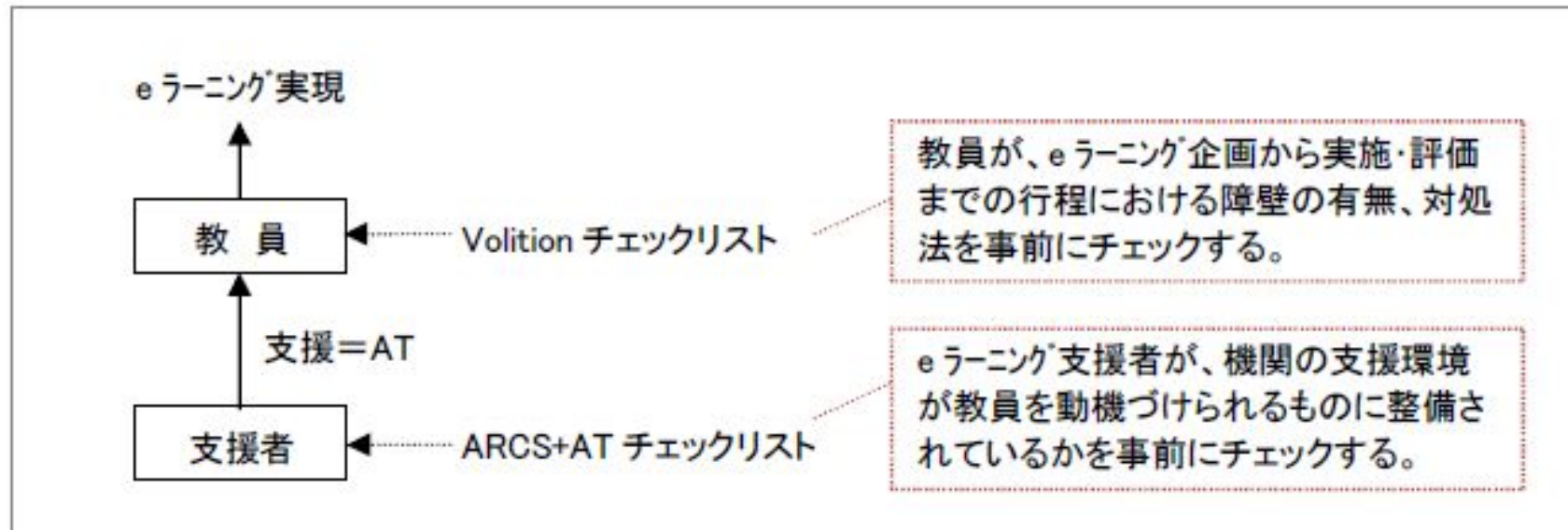
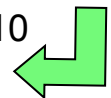
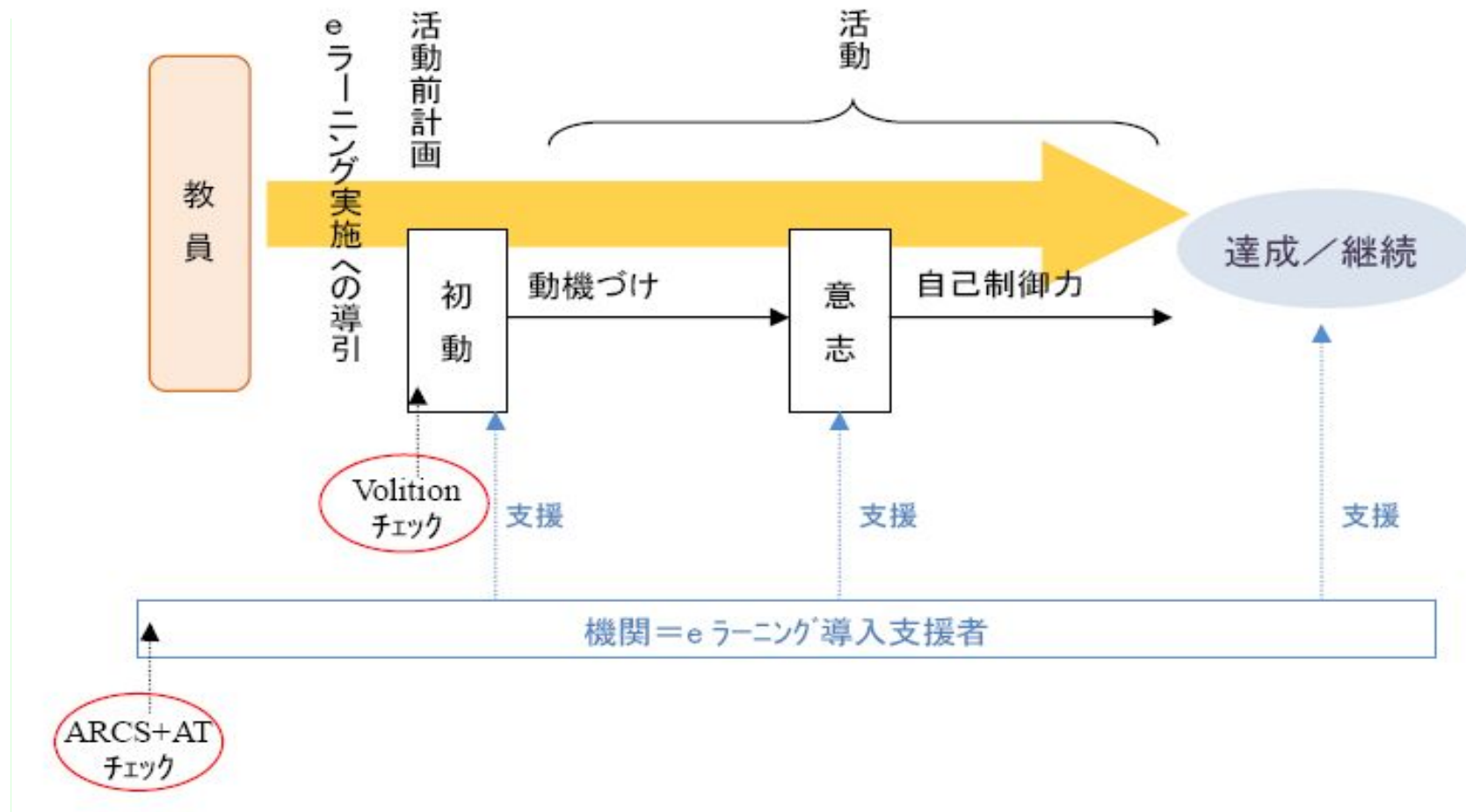


図. Volition チェックリストの位置づけ



チェックリスト利用と支援実施のタイミング



今後の課題：評価の方法は？

教員の「eラーニング実践の動機づけ」を支援する、という研究のデータを集めるための実験（チェックリスト試用？）計画や協力の要請先などはこれから考えるとして…

- 動機づけの支援方策は、どのように評価するのが妥当か？
 - ① eラーニング導入支援者から使用感についてインタビュー等
 - ② 支援された教員から実践結果についてインタビュー等
 - ③ 支援された教員の、動機づけによる「努力の量」
 - ④ 支援された教員の科目の学習者の学習成果
 - ⑤ その他

「動機づけ」の結果評価だけでよいのだろうか？
学習成果を求められる？

